

《支援センターによる人材育成支援の現状・課題》

- 各支援センターの性質（急性期病院、回復期病院等）により、実施可能な人材育成の内容が限定されている可能性がある。
- 支援センター間の連携が不十分であり、各センターの得意分野・強みが、それぞれの地域でしか活かされていない。
- 各支援センターが独力で地域のニーズに応えられる人材育成支援を行おうとすると、業務負担が過大になる。
- 支援センターの支援内容が地域に十分認知されていない。

※ 支援センターの人材育成支援実施状況は、資料4のとおり

《人材育成支援体制見直しの方向性》

各支援センターの得意とするリハ医療の分野を明確化し、それぞれの得意分野を活かすとともに、12のセンターで連携・協力し、人材育成支援ネットワークを構築する。

【具体的な内容の例】

- ・各支援センターが得意な分野に関する「標準研修テキスト」等を作成し、全センターで共有する。ほかの支援センターが同一テーマで研修を行う場合には、標準研修テキストを基本として、地域性に応じた内容を加味することで対応できるようにする。
- ・回復期リハ病院であるA支援センターは、地域で急性期リハに関する研修を実施する場合、急性期リハを得意とするB支援センターに協力、または研修講師を依頼する。
- ・各支援センターの得意なりハ医療を一覧化し、ホームページ等で公開。

【メリット】

- ◆ 標準研修テキスト等の利用により、これまで各支援センターが地域で実施しにくかった（得意ではない）分野に関する人材育成支援が行いやすくなり、支援事業の質の標準化に繋がる。
- ◆ 相互の支援・協力体制により、支援センター間のネットワークを構築できる。将来的には各協力施設もネットワークに含めることで、さらに広範なネットワークを構築できる。
- ◆ 研修テキスト作成等業務の簡素化により、支援センターの業務負担を軽減することができる。
- ◆ 支援センター以外の医療機関にとっては、各支援センター及び協力施設の得意なりハ医療の内容が公開されることで、患者紹介等の通常の医療連携に資することも期待される。また、患者にとっても都内のリハ資源がより把握しやすくなる。

《見直しに向けた行程》

- ① 各支援センターの得意なりハ医療分野を把握
 - ・ 支援センターに対して調査を実施
 - ・ 調査票案は資料7のとおり
- ② 把握した内容を基に、各支援センターが重点的に担う分野を調整
 - ・ 調査で回答のあった分野について、各支援センターがどこまで対応可能か
 - ・ 得意とする分野が重複した場合の取り扱い
- ③ 支援センターの得意分野一覧を基に、再度部会で協議
 - ・ 調査結果の具体的な活用方法

《支援対象施設の検討》

維持期・在宅リハの重要性の高まりに伴い、介護施設からの支援ニーズが増大していることから、医療施設だけでなく、介護施設に対しても重点的な支援を行う。

【介護施設支援のポイント】

- 患者紹介等を通じ、介護施設と日常的に連携のある施設を「協力施設」として活用し、地域により密な支援を行う。
- 支援センターと協力施設による介護施設支援を通じ、医療・介護のネットワーク構築を図る。
- 上記の支援センター間のネットワークに協力施設も参加することで、協力施設自身と地域のリハ医療のレベルを底上げすることができる。